

手て長なが足あし長なが

むかし、むかし、あつただど。

会津磐梯山あいづばんたいさんのあたりに、手長足長てながあしながという怪物かいぶつが住んでいたんだど。東の山から西の山まで、大きな手を広げて、おてんとうさまを隠かくして、真暗まっくらくしてしまつたり、大雨を降らせたり、雷様らいさまのような大声をだしたり、作物さくもつを荒あらしたり、いつもいたずらばかりして、会津の農民を困こまらせていたんだど。

ある時、百姓ひやくしやう達は、なんとかあのばけものを退治たいじできないものかと、みんなで相談そうだんしたんだげど、なかなかいい考えも浮うかばねで困こまっていたんだど。

そこに一人の坊様ぼうさまが通とおりかかっただど。

そこで、一人の百姓ひやくしやうが

「坊様ぼうさま、坊様ぼうさま、どうぞ私達を助けてくなんしよ。あの手長足長てながあしながには、ほとほと困こまつてやす。」